

前年度開催（静岡県沼津市）視察報告書

1. 参加都県市お出迎え

- 駅のホームから民生委員による案内があった。
- エレベーターの利用が多いためか、エレベーターの案内係もいた。
- 民生委員の距離感としては、次の案内役が目視で確認できる距離であった。
- 会場まで日陰から出ずに向かえたが、日向であると徒歩5分もリスクがありそうだった。
- 服装や手持ち看板など、パッと見て案内役だと分かる容姿であった。
- 参加者は余裕をもって到着する可能性が極めて高いので、受付開始時刻は明記するべき。

2. 代表者会議

- マイクは開催当番県に1本、得能会長・次年度当番県に1本必要。
- 特に発言者はいないためマイク係は他の係と兼務で1名いれば良い。
- 参加者配布用紙袋は代表者会議の席に用意して、式典会場はその分を引いて設置する。
- お弁当配付が結構大変かもしれない。

3. 式典

- 入場受付をいくつかグループ分けしていた。並んでいるとどこが何グループか分かるように、事前に受付の番号を割り振るか案内係を周辺に配置した方が良い。
- 分科会・情報交流会が分かる名札を配布し、分科会ごとに首紐の色を変えていた。
- 配布物案内・名簿照会の2名1組で受付、統括は後ろで待機していた。
- 受付参加券（式典・情報交流会）は団体1枚が良い。
- 資料等を入れるバッグは不織布ではなく防水のマチ付きバッグが良い。特にさくらめいとはテーブルがないためマチ付きでないと滑って落としたときに中身が散乱する。
- スクリーンに現時点の次第のタイトルを表示していてわかりやすかった。
- オープニングセレモニーは団体の用意中に団体の説明をした方がスムーズ。
- 写真撮影・録画は禁止する場合はきちんと説明する必要がある。（新潟参照）
- 講演台の花をあまりに立派にすると斜めに着席した人から登壇者の顔が見えない。
- 信条朗読・児童憲章朗読・物故者への黙とう・民生委員の歌までは起立のまま済ませる。
- 主催者挨拶の中で記念講演講師の紹介を軽く済ませておく。
- 全体会は当該年度当番県会長を議長、次年度当番県会長を副議長とする。
- 記念講演で演奏がある場合、アンコールを考慮した時間設定とする。

4. 情報交流会

- シャトルバスは団体ごと時間指定の方が待ち時間が発生せずスムーズと思われる。
- 式典同様受付参加券は団体1枚が良い。
- 帰りの時間についても、バスの1便目に乗れなかった団体は次のバスが来るまで外で並んでいる必要があり夜とはいえ暑い中で負担であった。整理退場をしてバス指定が好ましい。

5. 分科会

- 前日の分科会打合せ会議は、台本を作りシナリオをもとに進める。
- 受付開始時間は念入りに要項に記載しておく。受付開始前に多くの民生委員が来ると整理に人員を要し、また急かされたり質問への対応が必要となったりで準備がバタバタとする。
- 受付参加券は不要と思われる。首紐の色で判断できるため。
- 飲み物については水を後方に用意して各自給水できるようにしても良い。
- パソコンは2台以上必要である。発表者スライドの投影と当日トラブル対応用。
- 各会議室の音響や映像の設置については必ず下見で試すこと。全ての会場で同じ配席・セッティングで出来るわけではない。実際問題が生じていた。
- 記録係・タイムキーパーは司会運営側ではなく、参加者側の最前列に座る。これによって残り時間の表示を発表者が見やすい位置で行なえる。
- 残り時間表記を10分と3分でやっていたが、全体のボリュームと配分を意識できておらず、終盤に焦って説明を省略した発表者が複数いた。残り時間がタイマーのように見えた方が良かった。

6. 開催に向けて

- 初日式典開始前の移動について、籠原駅⇒さくらめいと間のバス・熊谷市ホテル⇒さくらめいと間のバスは問題ないが、熊谷駅⇒ホテルまでの徒歩ルートが暑さの中で大丈夫か。
- 式典終了後から情報交流会までの間にホテルに寄ることが現実的ではないが、具体的にどういった動きが想定されるか検討する必要がある。特に荷物の関係。
- 2日目のキングアンバサダー・スポーツホテル間のバス送迎は、他の宿泊先からバス乗り場までの移動を徒歩想定としているが、適切か。宿泊施設を限定してそこを含めた送迎とするべきではないか。
- 2日目の帰りは、分科会の終了時刻が同じであると全都県市がスポーツホテル組を待つ必要がある。スケジュールや待つ場所・合流場所の想定をきちんと行う必要がある。